

# とよた都市農山村交流ネットワーク

調査団体名	: とよた都市農山村交流ネットワーク	団体代表者名	: 山本薫久
設立年	: 2008(平成20)年12月10日	対応してくれた人の名前	: 山本薫久
団体URL	: <a href="http://www.toyotasanson.net/">http://www.toyotasanson.net/</a>		
活動拠点	: 愛知県豊田市の農山村	調査員	: 沖 章枝、松井賢子、長澤壮平
取材日	: 2013年10月29日	レポート作成者	: 長澤壮平

## 活動内容

活動の目的は、都市と農山村が交流する場をつくることによって、都市部の人たちに農山村の魅力を伝えるとともに農山村を活性化すること。足助、旭、稲武、下山、小原、松平など豊田市の農山村域でさまざまな交流事業をしてきた。旧町村ごとに地域会(6地域会)を組織し、幹事が集まり毎月打ち合わせを行っている。農都交流の取り組み、都市と農山村のネットワークを構築し推進する組織が、とよた都市農山村交流ネットワーク。

もっとも力を入れている活動は「セカンドスクール事業」。ひとつは、豊田市内の希望する小学校が行事として2泊3日の農山村体験をするというもの。小学生3人から4人で1軒の農家に泊まり、3日間は田舎の子になる。野菜が大好きになったり、食事作りや後片付けが当たり前になったり、保護者がびっくりするほど子どもたちによい影響を与えている。もうひとつは、希望する小学生が2泊3日や1泊2日で農山村体験できるフリー版を実施している。毎回希望者が殺到し、事業の拡大を目指している。2013年度は約250人の小学生が参加した。

その他、広く大人を対象に行っている事業として、農業体験、山里の料理・道具などを手作りする山里の知恵を学ぶ講座、森林の恵みを体験する講座など、多彩な講座を開き、都市の人々が農山村に触れる機会を提供している。

## キャッチフレーズ

### 農山村の教育力

#### 会のモットー(何を大切にしているか)

私たちの子や孫たちが 住み続けたいと思う 帰りたいと思う そのような「山里」にしたい  
訪れる人が また来てみたいと思う 住んでみたいと思う そのような「山里」にしたい  
そのような「山里」の 山・川・里で  
自然にふれ 山仕事をして 野良仕事をして 人と交わることが 幸せだと思  
そんな輪(ネットワーク)を広げたい

## 連携している団体・専門家・自治体など

2010年3月、農山村で活動するさまざまな団体やグループと「農山村へのシフト千年委員会」を立ち上げて、毎月、会合を開催している。それらの団体と共に実行委員会をつくって、農山村地域で「あすけ夢里まつり」「ほんわか里山交流まつり」、豊田の市街地のど真ん中で「いなかとまちの文化祭」を開催している。延べ数千人の参加を得ている。これらの取り組みによって、多くの市民に暮らしの原点である農山村の自然、営み、文化に注目をしていただいている。その動きの中で、今年度、豊田市は『おいでん・さんそんセンター』を設立した。このセンターは市の組織として、都市農山村交流を進めようとするもので、とよた都市農山村交流ネットワークと目的や事業内容がほとんど一致している。このため、高度な協力体制が可能になり、農山村交流の取り組みは今後ますます活発になると予想される。セカンドスクールでは豊田市教育委員会の協力を得ていて、未来の山村を担う次世代教育となっている。

## 現在直面している課題

地域ごとに特色があり、セカンドスクールのやり方も地域ごとに全く異なるため、一律の活動にせず、そうした地域ごとの特色を活かすよう気を配っている。

## 今後やってみたいこと

セカンドスクールの受け入れ態勢を充実させ、さらに拡張していきたい。また、『おいでん・さんそんセンター』やさまざまな団体と協力共同をさらに進め、取り組みを充実させていきたい。

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

活動は豊田市と連携しているが、縦割りではいけないと思っている。例えば、産業部の農政課がやってるからグリーンツーリズムだ、地域づくりだから社会部だ、持続可能な社会といえば企画だというのではなく、それら全てを総合するような取り組みとしてやっていきたい。

## チームオリジナルの質問

<質問内容>若い人や地域の人たちとの結びつきをどうやってつくってきたのか。

<答え>地域で本当に意欲がある人とは、結びつきやすい。田舎に住んでいても、どうでもいいという人たちとは難しい。それから、自分の世代しか考えてない人も難しい。子や孫とか、先々のことを考えてない人たちは、今の生活に満足しているので、新しいアクションはいらないと考えている。しかし、旭地域の人たちは子や孫の時代がどのようになるか見ているし見えているので、活動に意欲的。そういう人たちと一緒にやっていける。

## その他、伝えたいこと

いろいろなところで皆さんがもうやっておられるので、一緒になってやれば良いと思う。豊田市で完結するのではなく、根羽とか設楽とか恵那とかと結びつのが大事。この地域は山も海も都会も近いので、やりやすいと思う。流域圏全体が結びついて一緒にやっていきたい。

## 写真



セカンドスクールの様子